

社会科における思考ツールを用いた授業実践（実践記録）

草津町立草津中学校 奈良寛嗣

1 実践主題

思考ツールを用いた社会科の授業実践

2 実践主題の設定理由

新学習指導要領の最大のキーワードである、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善がさまざまな場で実践されている。その中で、思考ツールを授業で用いることで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるのではないかと考えた。また、田村学氏の著書『深い学び』の中でも

「思考力を育成するにウェビングマップやピラミッドチャートなどの思考ツールが欠かせない。」「また、深い学びを実現させるためにも思考ツールは有効である。なぜなら、深い学びは、知識を相互に関連付ける構造化が求められるからである。」「今後、育成を目指す資質・能力の鍵となる存在として思考スキルや思考ツールがクローズアップされることが考えられる。」

と、思考ツールの有用性が記されている。

以上の理由から、思考ツールを用いた授業実践を行おうと考えた。

3 実践のねらい

- ・思考ツールを用いて、主体的・対話的な深い学びを目指した授業改善の一例としての授業実践を行うことで、生徒に思考力や見方・考え方を身に付けさせる。
- ・思考ツールの実践例を広める。

4 実践の内容及び方法

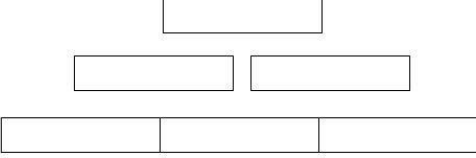
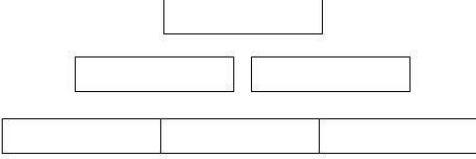
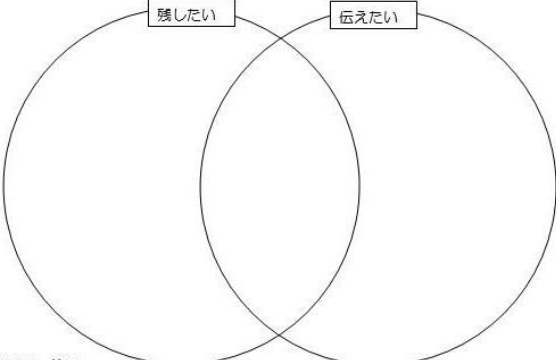
（1）実践の内容

- ・思考ツールを用いた授業を、単元に1単位時間以上組み込む。
- ・実践内容の掲示、公開授業実践、などの方法で、生徒がどのようなことを考えたのか、先生方へ思考ツールの意義、実践方法などを紹介する。

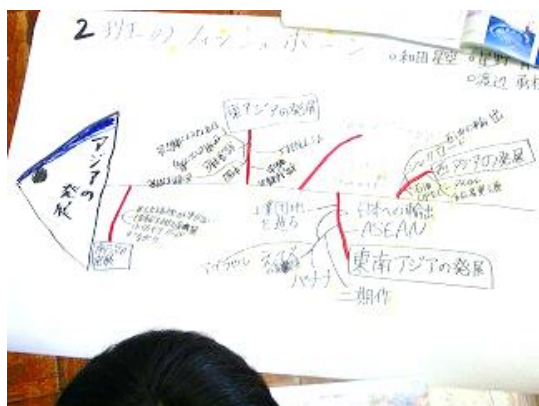
（2）実践の方法

- ・単元構想の際に、思考ツールを用いる授業を単元に1授業以上作る。
- ・思考ツールを個人のワークシートや、グループ用のワークシートを作成し、生徒の活動に用いる。
- ・『どのように学ぶか』を示すときに、「思考ツールで考えて」というプレートを黒板に貼り、生徒たちに思考ツールで学ぶことを意識させる。
- ・「分類する」「比較する」「分析する」「整理する」など、どのような見方・考え方をするかを生徒たちに示す。
- ・授業実践を自己評価し、A・B・Cを付ける。

5 実践の実際

5月24日	戦後日本の発展と国際社会 (3年)	ダイヤモンドランキング (順位付ける)	自己評価 B
		<p>民主化の内容を一通り学習したところで、「民主化にとって大切だと思う政策は何か」という発問をした。生徒は初めてダイヤモンドランキングを行ったが、比較的スムーズに考えることができた。個人の考えを作ったあと、なぜその順位付けになったかの根拠を重要視した。</p>	
6月7日	世界各地の人々の生活と環境 (1年)	ダイヤモンドランキング (順位付ける)	自己評価 B
		<p>今まで学習してきた気候帯の中で、自分が住みたいと考える順番をダイヤモンドランキングで順位付けした。温度の部分だけではなく、食生活・住生活・産業など多角的に考えた。根拠を説明する際に既述の面に触れて説明させ、様々な面から考えることの重要性を伝えた。</p>	
7月5日	私たちの生活と文化 (3年)	ベン図 (比較する)	自己評価 B
<p>残したい、伝えたい日本の文化を書こう</p> 		<p>文化の内容で、伝統文化、世界に広がる日本文化の視点を使い、これからも残したい文化、世界に伝えたい文化をベン図にして、その相違点や共通点という考え方で比較分類した。</p>	
9月10日	人権と共生社会 (3年)	ダイヤモンドランキング (順位付ける)	自己評価 B
<p>自由権の内容で、教科書の公民にチャレンジのダイヤモンドランキングを実践。なぜそのように順位付けたかの根拠を重要視した。友達にもなぜこのランキングになったかを質問させることで、対話的な活動が活発化した。</p>			

9月13日	アジア州（1年）	フィッシュボーン（分析する）	自己評価 A
-------	----------	----------------	--------



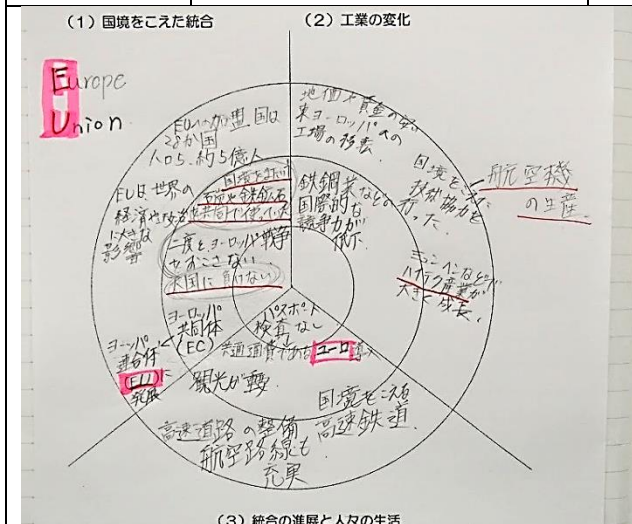
アジア州の発展について、フィッシュボーンでまとめた。頭の部分には「アジアの発展」と書き、アジアが発展してきた理由、原因を分析した。初めてのツールなので戸惑う生徒もいたが、発展した要因に視点を絞ったり、東アジアや南アジアなどの地域毎に分析させたりすることでスムーズに考えることができていた。後半はグループでも一枚の模造紙に作業を行った。各自で考えたことを交流し合い、アジアが発展してきた多くの要因を、各グループとも分析することができた。

9月21日	人権と共生社会（3年）	ベン図（比較する）	自己評価 B
-------	-------------	-----------	--------



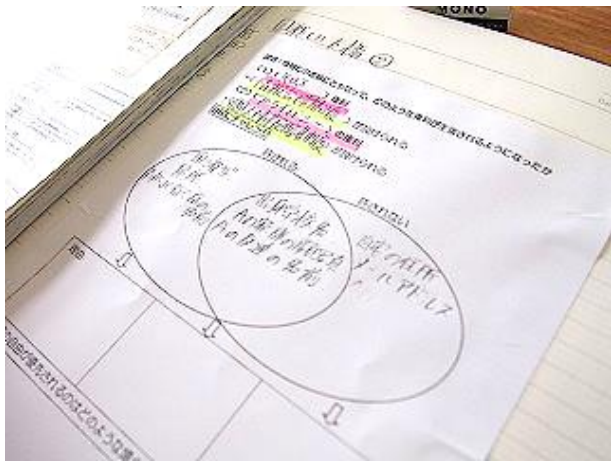
公民にチャレンジ「公共の福祉」について考えようの場面で利用。バイパスの建設予定地の住民に立ち退いてもらう際に、さまざまな事情をまとめたベン図を利用して、それぞれにどのような補償をすべきかを話し合った。それぞれの事情の共通点や、相違点を明らかにするのに有効であったと感じる。「25世帯の補償に5億円が出た。それをどう分配するか。」という発問にした。1世帯当たりの基準が2000万円、そこから、それぞれの事情で補償に差が生まれるのかという視点で考えることができた。

9月21日	ヨーロッパ州（1年）	同心円チャート（変化をとらえる）	自己評価 A
-------	------------	------------------	--------



①ヨーロッパ統合、②工業の変化、③統合の進展、という3つの視点を与え、それぞれがどのように変化をしてきたかを、考えさせた。授業の実際はジグソー学習を取り入れた。それぞれの①～③の担当を決めて、個人で調べ学習を行った。その後各同じ担当同士で交流をして、調べ学習の結果を共有した後、別の担当でグループを作り、それぞれ発表をし、調べた内容を学び合った。網羅的な学習よりも、変化を捉えるという視点で学習ができ、ノートもアクティブな生徒が多かった。

9月26日	これからの人権保障（3年）	ベン図（比較する）	自己評価 A
-------	---------------	-----------	--------



公民にチャレンジ4 プライバシーの権利と表現の自由についてベン図を使って考えた。本に掲載しても「許される個人情報」「許されない個人情報」「悩むもの」をベン図で分類した。悩むものを作ることで、多様な考えに触れることができたり、状況や場合によって許されるかどうかが変わったりすることに気付いた生徒が多かった。また、分類したものの共通点を探し、なぜ許されるのか、許されないのか、理由を考えることができた。個人情報には重要度があること、また状況によっては知らせるべき個人情報もあることに気付くことができた。

9月26日	ヨーロッパ州（1年）	PMI（分類する）	自己評価 A
-------	------------	-----------	--------

P (プラス)	M (マイナス)	I (面白い)
石炭、鉄鉱石を共同 小使している 航空機を共同所有 共通通貨ユーロ導入 日本より高緯度なのに 気温が高い 補助金の支給 パスポート無し 別の国への会議成立	経済格差は、 EU加盟国の間でも 国民総所得(GNI) が、10倍以上の差が ある。 政策面 意見調整に時間がか かる。 Eしが強くなり、各国の 考えが反映されにくい	クリスマス、イースター など、キリスト教に関連し ない日がある。 3つの言語 金曜日に肉を食べない キリスト教が分かれている パイプライン派手 農業の種類

ヨーロッパ州や EU についてのプラス面、マイナス面、面白い面をチャートにまとめさせた。プラス面とマイナス面はこの単元で理解しておくべき内容についてほとんどの生徒が書くことができていた。面白い面については、人それぞれの興味関心が挙げられた。キリスト教には3種類ある、金曜日に肉を食べない文化がある、など、教科書から様々な面白い点を探ることができた。

10月1日	誰を市長に選ぶべき？（3年）	マトリックス図（整理する）	自己評価 A
-------	----------------	---------------	--------

	良いところ 効率、公正の視点も使う	問題点 効率、公正の視点も使う
A 候補		
B 候補		
C 候補		

A 候補、B 候補、C 候補、D 候補の効率と公正の考え方を使って良い面と、悪い面をマトリックス図に書き出した。そこから、グループでどの候補を支持するか主張をし合う話し合いを行った。マトリックス図に全候補の良い面、悪い面をまとめようとする中で、生徒達は複数の資料から読み取り考えることができた。さらに自分の考えを作ることがスムーズにでき、その後の話し合いも普段より白熱したものになった。

10月5日	現代の民主政治（3年）	CRS（分類する）	自己評価 B
-------	-------------	-----------	--------

PMIの変形でオリジナルのCRSという思考ツールを使用した。Cはcause（原因）、Rはresult（結果）、Sはsolution（解決）の視点から考え、意見をまとめるというものである。

学習課題は、『現代の選挙の問題点はどのようなものか』であり、投票率の低下についてCRSという思考ツールを用いて考えた。resultについては、投票率が下がり一部の人の意見で政治が決まること、また、高齢者の声を優先しがちで更に若者が選挙離れしてしまうことに気付けた。solutionについては、各政党の方針などをわかりやすくまとめたものを作成、インターネット投票、投票しない有権者への罰則、逆に投票した有権者には特典など、様々な案が出された。

原因 (cause)	結果 (result)	解決 (solution)

10月17日	平安文化（1年）	マトリックス図（整理する）	自己評価 C
--------	----------	---------------	--------

平安時代の文学作品について、マトリックス図にまとめた。単なる表ではあるが、穴埋めよりも生徒達が視点をもって調べることができた。それ以外はそこまで特筆すべきことはなし。

10月25日	アフリカ州（1年）	PO（分類する）	自己評価 B
--------	-----------	----------	--------

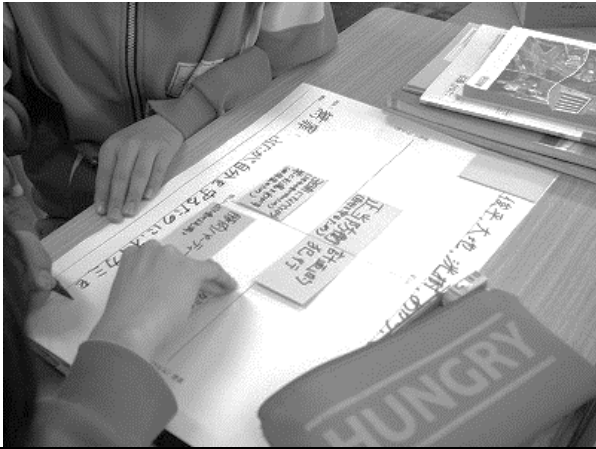
PMIの変形でオリジナルのPOという思考ツールを使用した。Pはproblem（課題点）、OはOutlook（見通し）の視点から考えるというものである。

学習課題は『アフリカ州の課題はなにか』である。単なる穴埋め学習にはならず、教科書や資料から課題点やアフリカ州の展望をきちんと視点をもって、調べることができていた。生徒達も慣れてきたようで、自分達でノートの色の工夫したり、「この課題に対してこの解決」と線をつないだり、自分なりに思考ツールを活用することができるようになってきた。

Problem（課題）	Outlook（展望）

10月30日	国の政治の仕組み（3年）	座標軸（整理する）	自己評価 A
--------	--------------	-----------	--------

裁判員制度の模擬裁判を行い、判決を出すに当たって座標を使用した。教材はNHK for SCHOOLの



昔話法廷を使用した。横軸を検察側、被告人側に分け、縦軸を正しいと思う証言、怪しいと思う証言に分けて付箋に書いて座標軸に貼り整理した。座標軸を使ったことにより、それぞれの証言について、証拠はあるのかどうか一つずつ協議することが可能になった。なんとなく判決を出すのではなく、この証言についての証拠がない、などの理由を述べて判決を出すことができた。双方の立場の意見を整理するのに適している思考ツールであったと考える。

11月15日	私たちの消費生活（3年）	変形Yチャート（分類する）	自己評価 A
--------	--------------	---------------	--------



公民にチャレンジ「広告について考えよう」で使用。実際の広告を使い、グループで模造紙に変形Yチャートを用いて行った。

グループで3枚広告を選ぶ。広告の中で購買意欲を高める工夫をYチャート円の中。それ以外の情報を円の外に貼った。

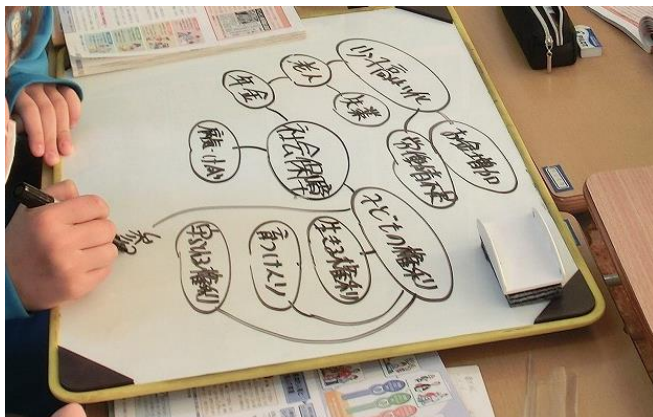
それぞれの共通点を探し、円の外に貼られたものは、文字は小さいが注意書きなど大切な情報が書かれていることに気付くことができた。さらにそれらの情報に同意をして契約

を行っているということに気付くことができた。

12月1日	働きやすい職場を築くために（3年）	座標軸（比較・分類する、整理する）	自己評価 A
		<p>学習課題「なぜ非正規労働者が増えているか」に対する主活動として座標軸を利用した。経営者側の視点と、労働者側の視点から、非正規労働の長所、短所を考え、座標軸に記入した。学習課題の予想の段階では、労働者側の都合でバイトを選ぶ人が増えているという考えが多かったが、経営者視点で考えることで、企業側の人件費の削減などの理由として考えることに気付くことができた。また、グループで交流することで、友達の考えから気付く場面も作ることができた。</p>	

12月7日	鎌倉時代の文化と仏教（1年）	座標軸（比較・分類する、整理する）	自己評価 C
		<p>学習課題「鎌倉時代の文化はどのような特色か」に対してのまとめで、座標軸を活用した。縦軸を「武士的」「貴族的」横軸を「簡単」「難しい」として、①新古今和歌集、②徒然草、③平家物語、④金剛力士像、⑤鎌倉仏教の5つはどの辺りに位置づけられるかをグループで考えた。</p> <p>しかし、生徒たちは、文化の中心がどのような職業や立場か、どのような人たちに広まったか、という視点で各時代の文化を見ていなかったため、多くの生徒たちは鎌倉仏教も金剛力士像も貴族的に位置付けていった。教えても生徒たちには大切な視点が伝わっていないことの良い例になったと思う。メインの活動を座標軸による比較・分類にすれば、視点を持って、どのような文化であったかを捉えることができたのではないかと考える。また、座標軸の視点も見直しが必要であると考えている。</p>	

12月15日	社会保障の仕組み（3年）	ウェビング（広げる、関連付ける）	自己評価 A
--------	--------------	------------------	--------



本時の内容を押さえたあとに「今まで学習した内容で、社会保障に関連することを探そう」という発問で、ホワイトボードへウェビングを行った。

公民的分野からは、生存権、社会権、子どもの権利条約、少子高齢化、失業者などが上がり、歴史的分野からは産業革命、資本主義、ワイマール憲法、などが上げられた。歴史的な背景から生まれたことや、人権、特に生存権を守るための制度

であること、社会を取り巻く状況と深く関連をしているから、社会保障関係費に関わる費用が多いことなどに気付けることができた。

今回の実践は、既習事項と本時の学習が結び付くことをねらいとし、ウェビングによってそれが達成できたと考えられる。深い学びの実現にも思考ツールが有効である例と考えられる。

6 実践のまとめ

- ① 単元に必ず思考ツールを用いた授業を入れるという条件により、新しい授業を行うことができた。
- ② 生徒たちが考えながら、さらには友達と対話をしながら学ぶことが増えた。
- ③ 単なる穴埋めのワークシートになることが大幅に減少した。
- ④ 授業、または生徒の実態に合うように、もともとある思考ツールを変形させてオリジナルの思考ツールを作ることができた。生徒の実態を考えたとき、オリジナルのものを使うことでより効果的になることもあることに気づいた。対話的な学びを行う上でのコミュニケーションツールとして適していた。
- ⑤ 授業実践を報告したり、公開したり、掲示したりすることで、思考ツールに興味をもってもらえる先生方が増えた。
 - 例1：2年生の道徳で座標軸、ダイヤモンドランキングを使用。
 - 例2：学校保健委員会でフラワーチャート、ダイヤモンドランキングを使用。
- ⑥ 校内研修の時間で思考ツールを紹介する時間をいただき、他の先生方へ説明をし、伝えることができた。

